Enokidayoshida + rokuta
鹿児島県霧島市横川

見える繋がり　見えない繋がり

01. 背景

日頃のニュースや地元でも見られる空き家問題は
他人事ではない。考えるだけでなく、実際に空き家の調査や
解決への糸口について様々な人たちと議論し、アイデアを
形にすることで、空き家問題改善への一歩になると考える。

建物や住宅は人がその場所を利用すること、
住み続けることを止めてしまうと、
建物や住宅自体が老朽化する。
そして改修や修繕がされずに時間が経つと、
倒壊による事故、怪我、人がいないことで
犯罪も起きる可能性がある。
このように周辺環境にも良くない影響を及ぼす。
空き家は周囲に与える影響にも問題があると考える。

そこで、霧島市で一番空き家が多いとされる横川町で、
地域の課題と空き家の問題点を一緒に解決できる提案をする。

このコンペを通じて地域への貢献や活性化だけでなく、
この活動に携わっていただく地域の方々、
そして自分達の成長にも繋げる。

02. 対象地域

鹿児島県霧島市横川町

霧島山系の西端にあるため、夏は涼しく、冬は山からの冷え込みが激しい。
町の 82%が山林で、平地が少ない。

人口　3702 人（～ 14 歳 304 人、15 ～ 64 歳 1741 人、64 歳～ 1657 人）
令和 3 年 5 月 1 日現在

→令和元年より約 280 人減

課題
人口減少と高齢化に伴う問題
　空き家問題　若い人が少ない　子供が少ない　お店が少ない

歴史的建造物や横川の魅力が知られておらず、観光客が少ない

宿泊施設がない　霧島市で一番空き家が多い

03. 地域との関わり

対象地域を横川町にした理由は霧島市で一番空き家が多い他に、
横川町でのいくつかの活動があるためである。

ウォーキングマップの作成やポスター作成そして、その調査のための
インタビューや散策で地域の方々とお話することができ、横川町の
魅力をより知ることができた。

04. 調査・活動

地域での workshop や現地調査は合わせて 5 回程行った。一回目の workshop では霧島市横川総合支所で今回のコンペの説明、ご協力のお願い、活動に関しての打ち合わせを行い、その後、対象とする猪俣医院の母屋の見学。　日を開けて一回目の現地調査では周辺地域の調査として対象の母屋やその周辺を散策。　二回目の workshop では、地域の方々との交流を深めるべく、横川町にある文化財の石倉で横川町のことや今後の活動について和気あいあいとお話しすることができた。　その後、二回目の現地調査では母屋の寸法の測定を行い、提案についての会議を行う。　そして三回目の workshop では今までのことを含め、改修案の提案を発表し、改善点や活動についての会議を行った。
　そして、最後となる四回目の workshop は最終提案であり半年の集大成。地域の方々に向けての発表。

一回目 workshop 8/4

猪俣医院の母屋 見学

二回目 workshop 8/18

二回目の現地調査 9/7

三回目 workshop 10/29

05. 現状と改善

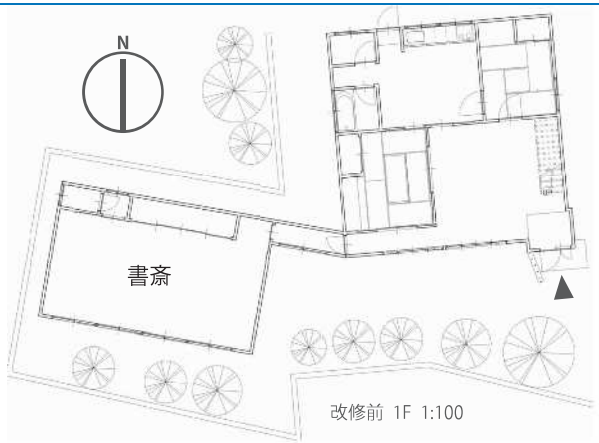
workshop や現地調査、地域の方々との話し合いなどから分かった現状をまとめる。
まず対象の猪俣医院は横川町唯一の病院であり、地域の方々にとって大切な心の拠りどころでもあった。

次に母屋に関して、現在管理しているのは横川支所。母屋の内部の状態は比較的綺麗で、水道や電気も通っており、すぐにでも人が住める環境。前の居住者の荷物や家具などが未だに残る。母屋の東側には広い駐車空間。
南側は植栽が多くを面している。西側から北側にかけては猪俣医院がそびえ立ち、そのすぐ後ろには山がある。
1F 南側正面玄関から入ると 2F への階段と広いリビングが広がっており、西側には堀こたつの広い和室。
　北側の引き戸を開けるとダイニングと水回りが備えられ、東側には二つ目の和室。正面玄関をすぐ左に曲り、広くはない通路を抜けると書斎が広がる。書斎には十分なクローゼットとトイレがある。　正面玄関の 2F への階段を上ると二部屋の和室があり、四方の襖を開けるととても開放的な空間となる。南側の掃き出し窓からは、庭の植栽や横川町の街並みや大隅横川駅から走る肥薩線を眺めることができる。
　母屋は道路から少し上がった土地にあり、周辺をブロック塀と植栽で囲んでいる。

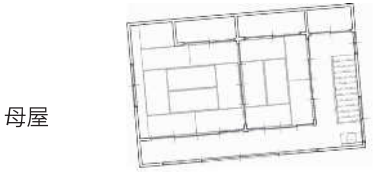
周辺地域に関して、人通りが少なく、車をたまに見かける。新しくできたカフェや駅で大きなイベントがあると地域の方々が集まり賑わう様子が見れる。

これらのことから、地域が賑わうための改善として、地域の方々が気軽に集まれる拠りどころがあり、イベントごとに集まるのではなく、日頃からそのような場所で過ごすことが大切だと考える。
また、母屋をそのような場所にはする場合には、より開放的な空間へと作り変えることが必要である。

地域の方々と話し合いをする中で、これから先、将来のことを考え、
子どもたちのための施設や色々な体験が出来る施設にできたらとの意見や
子どもの図書館という意見も聞くことができた。

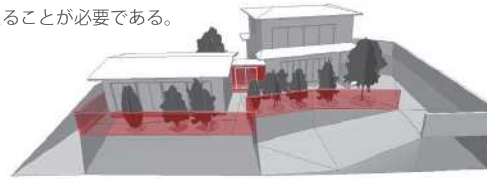


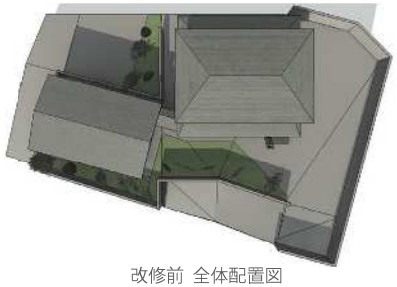
改修前 1F 1:100



改修前 2F 1:100

改修前 南側立面図




改修前 全体配置図

改修前 各部

06. 提案と今後の展開

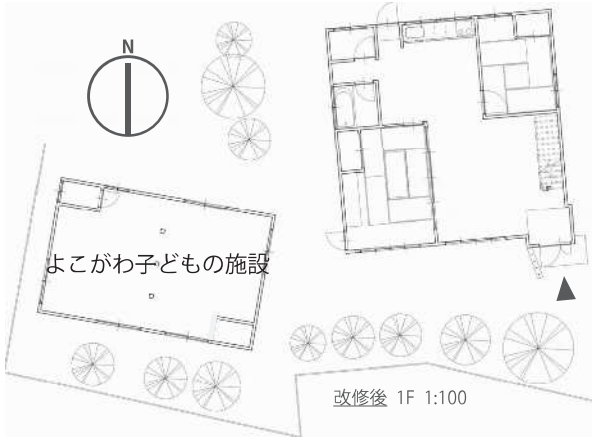
私たちの提案は猪俣医院の母屋を よこがわ子どもの施設・よこがわのシェアハウス
として改修する提案。地域が賑わう改善や地域の方々の意見を踏まえ、一つの建物に二つの機能を加えた。
　よこがわ子どもの施設は書斎を使い workshop や体験が出来る空間にし、さらに子どもの図書館としての機能も加える。子どもの日常的な空間になるように最初の段階としては、まず母屋を知ってもらうため、workshop を開催する。それを繰り返し、徐々にイベントから日常にシフトさせる。

　よこがわのシェアハウスは母屋の 2F を使い、主に自治体、NPO 法人、地域協力隊などの横川町を活性化させる職業の人たちのシェアハウスとしての空間にする。1F の西側の和室は会議や団らん、東側の和室は管理人用の部屋としての空間とする。

コンセプトは、見える繋がり 見えない繋がり 。繋がりの中の見えるもの、見えないもの、に視点を置き、それを建物や今後の展開に入れ込む。見える繋がり　見えない繋がりを大切にしてほしいという想いを込めた。表現や計画として形にすることで、より強く伝わっていくと考えた。それらを大切にすることで人と人との関係性が深まり、深まることでさらに広がる。それは母屋に関わる人が横川町を豊かに広げていくことを暗示している。

改修はまず母屋を囲うブロック塀を木の手摺に変える。母屋と書斎の間の通路を屋根のみにし、書斎の窓の位置を大きく変え、クローゼットを壊す。1F のリビングとキッチンの壁を壊し、1F の西側の和室を書斎への通路分広げる。これらのことで開放的な空間へと作り変える。
2F の南側の掃き出し窓に転落防止の手摺をつけ、
二つの和室のそれぞれの収納空間にデスクベッドを付けた。

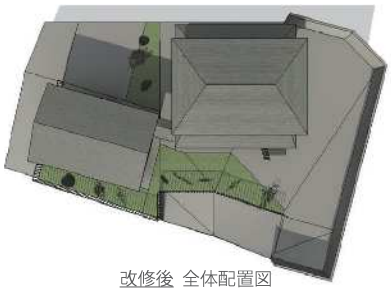
子どもたちから広がり、豊かになる横川町が今後楽しみである。



改修後 1F 1:100

改修後 2F 1:100

改修後 南側立面図


改修後 全体配置図

改修後 各部